



# CLINICALPATH NEWS

Japanese Society for Clinical Pathway

一般社団法人  
日本クリニカルパス学会

No.  
47

発行日  
2024年3月25日

in 埼玉

## 第23回日本クリニカルパス学会 学術集会 開催報告

2023.11.10～11

第23回学術集会 会長、獨協医科大学埼玉医療センター  
齋藤 登

2023年11月10日～11日さいたま新都心にて第23回日本クリニカルパス学会学術集会を開催いたしました。「パスは続くよどこまでも—多職種がともに学びあう未来へ向けて—」として、企画の段階よりこれからの医療やパス学会を担う人材育成の意味も込め、プログラム委員や実行委員、ならびにオーガナイザーは従来スタイルから大幅に刷新を試みました。

首都圏での開催は2015年に小西敏郎先生の第16回ご担当以来であり、社会的な物価高騰の折、当初の2ホテル会場から1か所に集約して収支を乗り切りました。

コロナ禍以降、久し振りに顔を合わせてさまざまな職種の方々が学び、知り合い、語り合う場として、現地会場のみ開催の方針とし、約2,000名の参加者が



齋藤学術集会長

来場されました。初日朝から予想を上回る当日参加者となり混雑する場面も見られ、勉強熱心な皆様のお姿に急遽ディスプレイモニター追加などのバリエーション対応を行いました。ご迷惑をおかけした皆様にはこの場を借りてお詫び申し上げます。

シンポジウム7企画とパネルディスカッション7企画では、院内外の多職種連携、患者の暮らしや安全につながるパス活用、パスの変更作業や担当実務者のお悩み相談、パス自慢やパス扱いとしている運用事例、タスクシフト・タスクシェアや経営改善、ePathもあれば紙パス、救急集中治療まで幅広くセッションテーマを組み立てました。看護業務やがん診療と漢方の役割に関するスポンサーセッション2企画、パス関東友の会名物のワークショップで“ア



実行委員会メンバー集合写真



学術集会賞表彰式



会場内光景-1



会場内光景-2

ウトカム評価の肝は……”を実践し、学術セミナー、論文書き方セミナーなど2日目午後まで熱気であふれ、満席続きとなりました。

一般演題(口演、ポスター)、パス展示に248演題、学術集会賞セッションを分けて10演題、シンポジウムとパネルディスカッションも合わせて、合計320演題にのぼる多くの応募とご発表をいただきましたこと、感謝申し上げます。

教育講演では日本医学教育学会理事長小西靖彦先生からクリニカルパスも例にとりながら若い医療者の学修について教育の面からお話いただき、参議院議員・医師・弁護士である古川俊治先生から電子カルテの標準化、全国医療情報ネットワークの構築、レセプト情報の2次利用の推進、次世代医療基盤法の改正などによる医療情報の利活用の推進の重要性を教えてくださいました。

加えて、今回は勉強だけでなく楽しめる学術集会を目指し、JSCP2023お楽しみ企画コーナーとして3つのプロデュースを行いました。1つ目はデジタルスタンプラリーを会場や企業展示を巻き込み、計500名に「さいたまお菓子セット」がもらえる企画を実施、2つ目は「趣味のパスコーナー」として鉄道関連のパスを勝尾信一先生と木佐貫篤先生に、登山関連のパスを小林美亜先生にご披露いただき、多くの参加者がディスプレイ展示に見入っておりまし

た。3つ目は会長講演に続くスペシャルプログラムとしてKiroro金城綾乃さんによるピアノ弾き語りライブを行っていただき、命と向き合い張り詰めた日々を過ごしている医療者をねぎらう感動を得ることができました。

「多職種、学び、未来」をコンセプトにパスを用いる医療スタッフやパス適用患者さんのヒューマニティ向上を目指した学術集会が、ご参加いただきました皆様、ならびに開催に際してSNS活用含めご協力いただきました皆様のご支援により盛会となりましたこと、心より御礼申し上げます。

in 埼玉

## 第23回日本クリニカルパス学会 学術集会 学術集会賞最優秀賞を 受賞して

2023.11.10～11

青森県立中央病院  
原田義史

このたび第23回日本クリニカルパス学会学術集会にて、最優秀賞を受賞させていただき大変光栄に感じております。クリニカルパスの恩師であります伊藤淳二先生が2024年3月で当院を退職されるため、せめてもの恩返しに学術集会に演題は出そうと思ったことが発表のきっかけでしたが、それがまさかの最優秀賞をいただき青天の霹靂でありました。

この賞は一般演題の中から10演題が候補としてノミネートされ、学会当日の学術集会賞セッションでの口演内容を評価して選出されました。私の演題名は「高齢者に対する人工股関節全置換術パスのバリエーション分析」でした。当院では人工股関節全置換術患者に対して、年齢に関わらず同一のクリニカルパスを使用しています。患者年齢は徐々に高齢化し、最近では人工股関節全置換術を受けられ





佐藤生小氏 五十嵐美沙氏 原田義史氏 齋藤登学術集會會長



原田義史氏

齋藤登学術集會會長

る約4人に1人は75歳以上の後期高齢者となってきました。運動機能が低下し、基礎疾患を多く有する高齢者に対する人工股関節全置換術の安全性を、クリニカルパスのバリエーション分析を通して検討しました。75歳以上の高齢群では、術後4日目の歩行器歩行と術後7日目の杖歩行が不可能な割合が高く、リハに関するアウトカムのバリエーション発生率が高い結果でした。しかしながら、退院基準日である術後15日目より7日間以上退院が遅延した割合には有意差を認めず、退院遅延理由はリハ継続や転院調整が主でありました。退院基準日を術後22日目に設定すると高齢群であっても86.4%が退院可能となる見込みでした。また、退院遅延のクリティカルインディケーターを検討すると、退院遅延患者は4日目の歩行器歩行可能アウトカム未達成患者が多い結果でありました(オッズ比 5.3倍)。以上の結果から、高齢者はリハや退院日に関するバリエーション発生率は高率であるものの、合併症に起因した退院遅延は少ないことから若年者と同一のクリニカルパスを使用しても安全性は担保されていると考えられました。

今回の受賞は伊藤淳二先生が長年積み重ねてこられたクリニカルパスの取り組みなくしてはなし得なかった受賞です。また発表にあたっては当院の多くの部署にご協力いただき、青森県立中央病院のクリニカルパスチームとしてい

ただいた賞と感じています。この場を借りて深謝致します。今回の受賞を励みに、今後もクリニカルパス活動に邁進して参ります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

### 【日本クリニカルパス学会 第23回学術集會賞 受賞者】

#### 最優秀賞：

2-B-10 「高齢者に対する人工股関節全置換術パスのバリエーション分析」

青森県立中央病院 原田 義史

#### 優秀賞：

2-B-04 「慢性硬膜下血腫パス短縮後の効果・検証」

公立昭和病院 佐藤 生小

2-B-06 「食道がん術後患者の在宅療養移行支援におけるケアの標準化」

医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院 五十嵐 美沙

#### ノミネート賞

2-B-01 「診療情報管理士によるパスにかかる運用改善のための取り組み」

東京大学医学部附属病院 溝口 紗智

2-B-02 「抗菌薬適正使用に向けたクリニカルパス改訂における事務員の役割」

東京医科歯科大学病院 中谷 潤

2-B-03 「クリニカルパス適用率とDPC期間2退院率から見たパスの有効性」

東京医科大学病院 金崎 健之

2-B-05 「腎代替療法を加味した慢性腎不全教育入院パスの見直し」

倉敷中央病院 山下 奈央

2-B-07 「大腿骨近位部骨折パスの最終アウトカム達成率が低いことの検討」

JA長野厚生連浅間南麓こもろ医療センター 合津 さゆり

2-B-08 「大腿骨近位部骨折クリニカルパスの問題点と改善策」

上尾中央総合病院 宇居 旭

2-B-09 「VATSCPの術前対標準1秒量が術後在院日数の予測因子になりうるか」

NTT東日本関東病院 村木 泰子

### 【2023年度日本クリニカルパス学会論文奨励賞】

#### 実践報告：第24巻第2号掲載

「クリニカルパスを用いたがん手術に関するリハビリテーションの効果」

岩手県立磐井病院 田中 結貴



田中良典編集委員長 佐々木涼子氏 田中結貴氏 高崎美幸編集委員

### 実践報告：第25巻第1号掲載

「大腿骨近位部骨折術後クリニカルパス改訂の取り組みとその効果」

北アルプス医療センターあづみ病院 佐々木 涼子

以上、敬称略。ご所属は論文掲載時のものです。

on Web

## 2023年度クリニカルパス教育セミナーに参加して

2023.7.1

岩手県立宮古病院  
川目ゆき子

当院は今年度、事業運営の重点項目として“クリニカルパスの拡充”を掲げています。クリニカルパス委員会に加え、新たにワーキンググループを組織し、7月1日のライブセミナーはパス委員、WGメンバー16名が受講しました。

セミナー前半2講演は初級～中級向けです。はじめに森影由美恵先生の「アウトカム志向クリニカルパスの作成と使用」は、講義そのものが「パスを理解・作成・使用」のロードマップであり、パス実践テキストであると思いました。患者用パスは患者さんの理解を深めるためにイラストの工夫等、心が込められており感心しました。

次に勝尾信一先生の「クリニカルパスの見直し(主にバリエーション分析)」は分析の具体例を示していただきました。分析対象症例を各アウトカムの達成状況が一目で把握可能な一覧で表し、“患者さんが歩行して退院出来たか”を評価項目とした時、レトロスペクティブに見てクリティカルインディケーターを導き出す内容でした。分かりやすく、私たちもこのような分析をしてみたいと思いました。

後半2講演は中級向けです。高志賢太郎先生の「済生会

熊本病院のクリニカルパス活動のご紹介」は、多職種で構成されたクリニカルパス分析専門部会の活動状況、ハイレベルな分析データに驚嘆しました。私たちは初心者レベルですがパス活動を継続することにより、こんなレベルに到達することができるのだ、と素晴らしい目標をいただいた気がします。

最後に丸岡博信先生の「みんなの“できる”を増やしてあげる」はファーマシューティカル・ケアの実践に向けた薬剤師のパス介入の事例を紹介いただきました。多職種が関わりパスの実践、バリエーション収集、分析、見直しを行うことが医療の質向上、患者さんのQOLや満足度につながると理解できました。分析に基づくパスの見直し事例は詳細な手順・項目まで紹介いただきました。そして「求めすぎずコツコツ」、「できることを一緒に探す」、「実践、定着まで寄り添う」、「ハードルを下げる」等のアドバイスはまさに金言、早く成果を出したいとの焦りを消してくれる言葉でした。

講演後、多くの質問に先生方が明快に回答下さいました。共感する質問が多々あり回答はとても参考になりました。あらゆる質問に淀みなく回答される先生方には死角は無く、知識と実践に裏打ちされた素晴らしい内容でした。

今回のセミナーで学んだ知識、頂いた熱量を院内のパス活動に活かしていきたいと思います。

in 大阪

## 第4回クリニカルパスエキスパートミーティング報告 その1

2023.8.5～8.6

松原病院  
松原拓郎

2023年8月5日、6日にわたり、大阪のクロスウェーブ梅田にて開催された2023年度エキスパートミーティングに参加させていただきました。参加者の一人として報告させていただきます。

各地で35度を超える記録的な猛暑日のなか、全国のパスのエキスパートが集まり会は開催されました。初日は山中先生から開会の御挨拶をいただき、勝尾先生から「次の10年を見据えたグランドデザインとマスタープラン・ロードマップの作成」という今回の趣旨が説明されたのちにグループワークが始まりました。

グループワークは6つのグループにわかれ、1時間半のセッションがメンバーチェンジをしながら複数回行われました。グループワークは充実しており、日頃自分が悩んで

いることに共感してくれる人たちがいるという喜びや、さまざまな専門性を持つエキスパートから得られる新たな知識に触れる高揚感を感じ、あっという間に時間が経過しました。

夜の懇親会では、皆でお菓子を持ち寄り深夜まで語りつくしました。この会で初めてお会いした方もたくさんいましたが、一晩で十数年來の友人の

ような仲間がたくさんできました。とても幸福な時間でした。

2日目にはグランドデザインの作成が行われました。グランドデザインは「臨床パスが医療・介護・健康マネジメントのインフラの根幹となる」を最終目標とし、その最終目標を達成するためには「医療の質の向上(医療安全・患者満足度・医療者満足度)」、「標準化と進化・創出(概念・用語・構造)」、「サステナビリティ(社会の変化に対応したパス)」という3本の矢が必要であり、すべての活動の基盤として「検証」と「教育啓発」が行われることが必要であるというものとなりました。

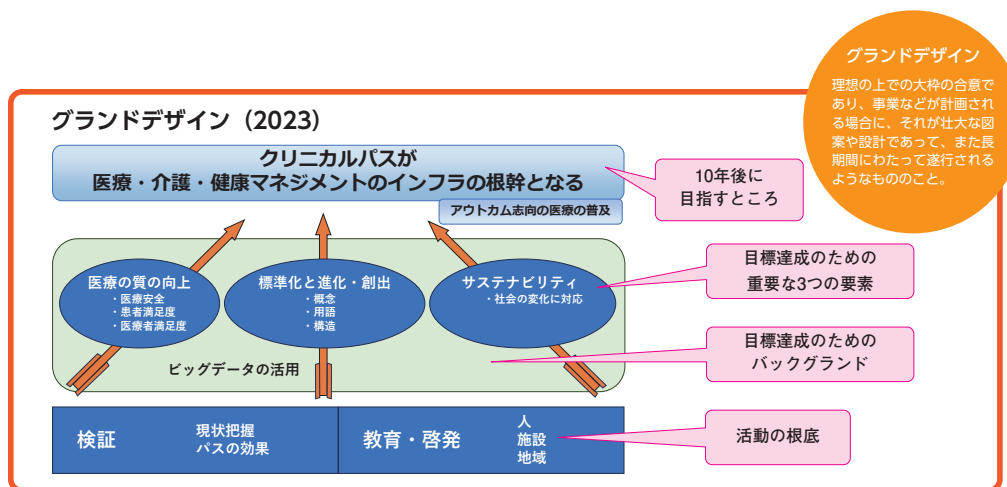
また2日の間に、山中先生の講演、岡本先生、今田先生のレクチャーが行われました。幅広い見地から鋭くパスの現状や未来を語られる先生方の姿を見て感動するとともに、いままでパスを牽引してきた先生方が懸命に築き上げた礎があって、我々は活動できているのだと改めて認識しました。

今回のエキスパートミーティングは、新型コロナウイルス感染症流行の影響のため2016年以來7年ぶりの開催でした。その分、主催された学会事務局の皆様、先生方の開催にかける思いは猛暑に負けないほど熱いものでした。主催された皆様に感謝を述べるとともに、大阪に集まられた皆様の今後の活躍と臨床パス学会の繁栄を願い、筆をおかせていただきます。

## 第4回臨床パスエキスパートミーティング報告 その2

松戸市立総合医療センター  
川西紀子 勝本礼子

2023年8月5日、6日の2日間、真夏の大阪梅田にて第4回臨床パスエキスパートミーティングが7年ぶりに



**グランドデザイン**  
理想の上での大枠の合意であり、事業などが計画される場合に、それが大きな図案や設計であって、また長期間にわたって遂行されるようなものこと。

開催され、外気温に負けない熱い議論が行われました。

参加者は、医師、看護師、メディカルスタッフのほか、診療情報管理士や病院関連企業などさまざまで、超エキスパートであるパス学会の諸先生方を身近に感じ緊張と興奮の中、勝尾先生の軽快なトークでスタートしました。

1日目は臨床パスに関する現状把握として、①前回作成されたグランドデザインの検証と②問題点の抽出を、2日目は③2023年度版グランドデザインの作成と④マスタープラン・ロードマップの作成を行いました。

限られた時間の中で、各グループに与えられたテーマについて徹底討論と全体発表を繰り返すという経験したことのない怒濤のワークショップ形式でした。

今後を展望する2023年度版グランドデザインの作成では、参加者のパスに対する熱い思いが交錯し、話し合いが難航する場面もありましたが『臨床パスが医療・介護・健康マネジメントのインフラの根幹となる』という壮大な構想に決まりました。

完成したA4用紙1枚のデザインの中には、「今後の社会における医療や介護、福祉の問題から国の施策といった多様な背景において、時代のニーズに合わせてパスを進化させていくこと。そのためには、まず、パスの効果検証が必要不可欠であり、教育や人材育成を行いながらビッグデータを活用し、パスの概念・用語・構造を標準化していくこと」が盛り込まれていました。

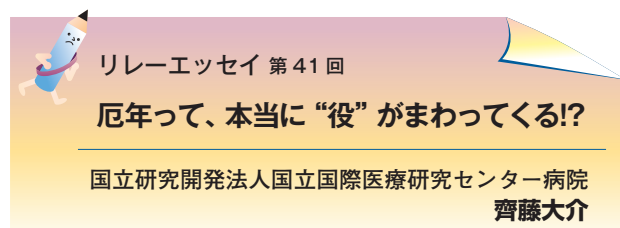
今回、自称エキスパートの私たちが、皆様の寛容さに甘えながら一緒に学ばせていただき、パスに関するのみならず、幅広い知識や経験、技術力、志の高さや心配りなど、そのすべてにおいて真のエキスパートとは何かということを感じることができ、大変光栄に思います。

今回の経験を最大限に活かし、今後のパス活動に精進して参ります。



このような貴重な経験をさせていただいた理事長の山中先生を始め諸先生方、参加者のすべての皆様に厚く感謝申し上げます。

次世代エースを担う皆様、是非一度、有意義な時間を共有してみたいでしょうか。



リレーエッセイ 第41回  
**厄年って、本当に“役”がまわってくる!?**  
国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院  
齊藤大介

はじめに、令和6年能登半島地震で被災された皆様、関係者の方々に心からお見舞いを申し上げます。私の故郷は岩手県の沿岸北部であり、東日本大震災で家族も被災しました。その時の心境と重なる部分もあり、心いたたまれない思いです。一刻も早い、復旧や復興を心よりお祈りいたします。

このたび、NHO東京医療センター診療情報管理士の目黒康平さんからバトンを頂戴しました。国立研究開発法人国立国際医療研究センター病院、副看護師長さいとうまさよしの齊藤大介です。現在は入退院支援センターで入院前の支援業務にあたっています。クリニカルパスとの出会いは委員会に所属したことが契機です。早くも10年が経過し、パス指導者としても活動をしています。当初は「アウトカム」「バリエーション」「フェーズ」「逸脱」など言葉の意味を理解することから始まりました。勉強のために日本クリニカルパス学会



に入会し、参加した第16回学術集会では大会長の小西先生がミッキーマウスのカチューシャを着け、どこの会場も参加者で溢れて刺激のかつ、闊達な議論がされていたことに感動したのを覚えています。学術集会、教育セミナー、指導者養成コース(一期生)、パス関東友の会での学びと仲間との出会いが現在までのパス活動とモチベーションの維持に欠かすことができないものとなりました。

そこに舞い込んできたのが第23回学術集会の実行委員、プログラム委員就任のお誘いでした。不安もありましたが、看護師人生で学術集会の主権者側を経験できる機会がどれだけあるかを考えたときに、私は挑戦することを選択しました。結果、それは間違いではなかったこと、新たな出会いと成長の糧となりました。オーガナイザー、座長として企画の立案・調整、広報部員としてのSNS運営はまさに臥薪嘗胆の思いでした。期待と不安を抱きながらの開催でしたが、型にとられない企画や運営には多くの方から賞賛のお声(もちろんご意見も……)を頂戴できたことは大変嬉しく、勉強になりました。この場を借りて、大会長の齋藤先生、事務局長の村木さん、委員・広報部員の皆様、座長としてご指導賜りました大阪大学附属病院の織田先生に感謝申し上げます。

クリニカルパスの良さの一つにはチーム医療の可視化と体現であると考えています。多職種が協働し、知恵を出し合ってパスを作る、使う、見直す過程を知ってしまうとその沼から抜け出せないほど面白いツールであり、活動です。これからもパスの面白さを伝え、私の強みである巻き込み力を発揮して多職種とのツナギ役として、後身の育成にも力を注いでいきたいと決意した本厄の年でもありました。

次のバトンは、私が座長を務めた学術集会賞セッションで発表いただいた東京医科大学病院で診療情報管理士をされている金崎健之さんにお渡ししたいと思います。

追伸：第23回学術集会Instagramの二次元コードを添付します。これからも活用できる情報が盛りだくさんです。ぜひ、ご覧ください。





2024年度

## 資格認定制度

「臨床現場における具体的なクリニカルパスの導入・運用および改善を支援する」という目的において、クリニカルパスの質を維持・向上することおよびその人材を育成することが必要と考え、パス認定士・パス指導者・パス上級指導者の3段階制の資格認定制度を設けております。詳細は下記URLより資格認定制度概要をご覧ください。

<https://www.jscp.gr.jp/nintei.html>

## 優秀英語論文賞 (JSCP Best Paper Award)

「学術的な研究を推進することを目的に、国際的に認められる研究の英文での発表を奨励する一環として、優秀な英語論文を表彰する」意図で、『優秀英語論文賞』を制定しております。皆様の応募をお待ちしております。

【応募資格】日本クリニカルパス学会個人会員(申請時に個人会員であれば可)

【応募期間】2024年4月1日(月)～5月31日(金)

<https://www.jscp.gr.jp/ronbun.html>

## クリニカルパス教育セミナー

### 『楽しく学ぼうクリニカルパス ～知ろう！作ろう！使いこなそう！～2024』

2024年も、Web Live 配信での開催を予定しております。

パスの導入教育、初期教育の実施に悩んでいる病院の皆様はもちろん、すでに自施設で実施できている病院の皆様にも役に立つ内容となっています。多くの仲間と誘いあつてご参加ください。

【開催日程】2024年7月6日(土) 13:00～17:00 ライブ配信

<https://www.jscp.gr.jp/act7.html>

## 学術研究助成

研究によって臨床現場におけるクリニカルパスの導入・運用および改善の支援に寄与することを目的として、学術研究助成を実施しております。多数の申請をお待ちしております。

【応募資格】主任研究者は日本クリニカルパス学会個人会員(申請時に個人会員であれば可)とする

【応募期間】2024年4月15日(月)～6月17日(月)

<https://www.jscp.gr.jp/josei2.html>

## 学術研究助成 募集中！

学術・出版委員会

日本クリニカルパス学会では、学術研究助成を実施しております。

クリニカルパスを基軸に、幅広い分野での学術研究を助成するものです。研究によって臨床現場におけるクリニカルパスの導入・運用および改善の支援に寄与することを目的とします。

【応募資格】主任研究者は日本クリニカルパス学会個人会員(申請時)とする。

【助成対象】下記のいずれかに該当する研究とする(複数該当可)。

- 1) クリニカルパス作成・形式等に関する研究
- 2) クリニカルパスの有効性・評価に関する研究
- 3) クリニカルパスの電子化の研究
- 4) クリニカルパスの教育および普及に関する研究
- 5) その他クリニカルパスに関連した研究

多数の申請をお待ちしております！

## 第24回 日本クリニカルパス学会学術集会

会 期：2024年10月4日(金)～5日(土)

会 場：愛媛県民文化会館  
(愛媛県松山市)

会 長：羽藤 慎二  
(国立病院機構四国がんセンター)

テ ー マ：温故知新  
ークリニカルパスのこれまで、現在、これからー

プログラム：

理事長講演、会長講演、招待講演、教育講演、教育セミナー、特別企画、  
共同企画、シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップ、  
一般演題(口演、ポスター、クリニカルパス展示)など

第24回学術集会公式ホームページ：

<https://kwcs.jp/jscp2024/index.html>



## 会員向け教育コンテンツの公開について

広報委員会

広報委員会では会員の皆様に有益な情報を提供するために、会員専用ページに掲載する教育コンテンツの充実を図っています。

現在は以下のコンテンツを掲載しています。

- ・過去に開催された学術集会のポスター発表データ(PDF)
- ・論文の書き方セミナーの動画
- ・教育セミナー基礎編の動画

ぜひ、ログインをして内容を確認してみてください。

ログイン方法：



1. 日本クリニカルパス学会ホームページのTopページ右上「会員専用ページ・ログイン」をクリック。
2. ログインの際に必要なユーザー名・パスワードは、最新号の日本クリニカルパス学会誌の編集後記のページにて、都度ご確認ください。(パスワードは定期的に変更させていただいております)

## 日本クリニカルパス学会 会員募集中！

日本クリニカルパス学会では随時会員を募集しております。お申込みの詳細については下記URLより学会ホームページをご覧ください。

〈会員の特典〉

- ・本会発行の学会誌、ニュースレター等の定期刊行物を受け取ることができる。
- ・学術集会で演題発表ができる。
- ・学会主催のセミナーなどに会員価格で参加ができる。
- ・認定資格を取得できる(個人会員に限る)。
- ・本会専用のメーリングリストに登録が可能。わからないことはメーリングリストで質問できる。

入会金：個人会員 医師 10,000円、医師以外 7,000円 法人会員 40,000円

年会費：個人会員 医師 10,000円、医師以外 7,000円 法人会員 40,000円

<https://www.jscp.gr.jp/contact.html>



発行

一般社団法人 日本クリニカルパス学会

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-8-10 外苑マンション 605

TEL.03-3354-2005 FAX.03-3354-2017 ホームページ：<https://www.jscp.gr.jp/>